

特集

東日本大震災復興支援



ワタミグループの復興支援アイコン



この度の東日本大震災により、被災された皆さまには心よりお見舞いを申し上げます。

ワタミグループが支援する公益財団法人 School Aid Japan(以下SAJ※)では、迅速に東日本大震災で被災された方々に災害支援活動を展開しました。

ワタミグループは寄附先・支援先をSAJに集中し、グループおよびそれぞれの事業会社において、様々な取り組みを行っています。

※SAJは本来、開発途上国の子どものために学校に寄与する公益財団法人ですが、今回の震災に限り、内閣府から許可を取得し、支援活動を展開しました。主に、税控除を前提とした寄附集めや現地でのボランティア活動を行っています。SAJの災害支援活動以外の活動については、P50をご覧ください。

ワタミ(株)取締役会長
渡邊 美樹 岩手県陸前高田市参与就任

被災者の皆様や、陸前高田市市長の声にお応えすべく、経営ノウハウを行政に生かしたアドバイスなどで、復興へ向けて全力で取り組んでいます。(2011年6月1日就任)

陸前高田市復興街づくりイベントをSAJが後援

2011年8月27日、28日の二日間に渡り、渡邊美樹が実行委員長を務める「陸前高田市復興街づくり実行委員会」により、「陸前高田市復興街づくりイベント～街おこし・夢おこし～」が開催されました。当日は、震災前の陸前高田市商店街の町並みが再現され、地元のお店や全国のグルメ店が出店されました。SAJは、その後援団体として、企画運営及び会場等の設営を支援する活動を行いました。



陸前高田市復興街づくりイベント

※陸前高田市復興街づくりイベントについては、P16をご覧ください。

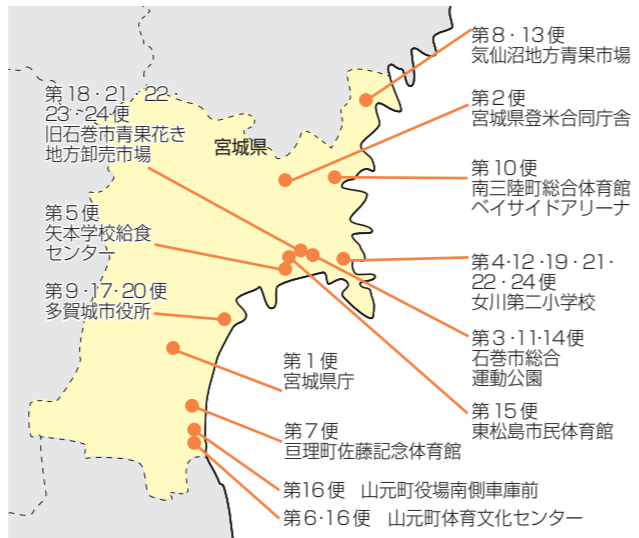
SAJによる被災地への救援物資のお届け

SAJでは、宮城県副知事と支援活動方法について相談の上、飲料水や食料などを被災地へお届けしています。

長期戦となる復興への道のりとともに歩むべく、トラックに物資を満載し被災地へ出発するピストン輸送を2011年3月15日より開始。8月31日現在まで24便をお届けしました。

ワタミグループは、SAJに継続して寄附を続けることで、SAJの食料・飲料・生活必需品の調達に全面的に協力しています。

■SAJは、一便一便、県が必要と判断する物資が必要な場所へお届けしました。(2011年8月31日現在お届け先)



救援物資の運搬



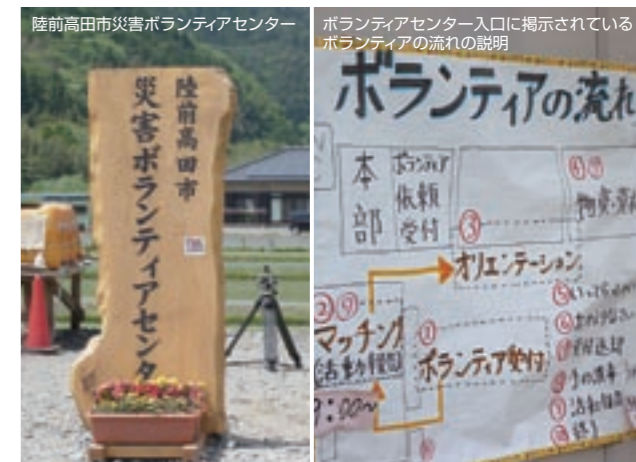
SAJの救援物資

SAJによる陸前高田市復興支援ボランティアの派遣

SAJは、支援活動の中で2011年5月、岩手県陸前高田市を視察し、復興作業のボランティアが圧倒的に不足しているという現実を直面しました。この現実に対し、SAJの活動主旨に賛同していただいています旅行代理店様と連携し、ボランティアを募集、貸し切りバスで陸前高田市へボランティアの派遣を行っています。

活動は7月より開始され、8月31日現在までに延べ38回、1,458名のボランティアを派遣しました。

ワタミグループは社員からボランティアを募集し、団体で参加、SAJの活動を支援しています。



ワタミグループ社員が参加したボランティア活動の報告

●7月13日 陸前高田市小友町

34名が参加し、側溝に詰まった泥をかき出す作業と瓦礫の撤去を行いました。

この日は、北海道の他の団体様と合同で作業を行いました。当時は、道路脇の側溝に泥が詰まっていたため蓋が開け放しになっており、車がすれ違うことすら出来ない状態でした。その泥をかき出し、蓋を設置し直したり、重機では撤去が困難な場所の瓦礫を人の手で拾い集める作業を行いました。

●7月21日 陸前高田市小友町

35名が参加し、海際に打ち上げられた瓦礫、以前までは家屋が立ち並んでいた場所に散乱している瓦礫を撤去する作業を行いました。

海際の撤去作業においては、満潮になると海に落ちている細かい瓦礫が陸に打ち上げられてしまうという現地の方のお話をお伺いし、打ち上げられた瓦礫だけでなく、海に落ちている瓦礫も撤去しました。

陸側の撤去作業においては、13日と同様、重機では撤去が困難な細かい瓦礫を拾い集める作業を行いました。

●8月25日 陸前高田市小友町

36名が参加し、指定された土地の草刈りや瓦礫の撤去を行いました。

被災地には、震災発生後から土地の手入れを行うことができず、瓦礫が散乱し、草が生い茂るなど、荒れてしまっている土地もあります。作業を行った土地には、人の背丈ほどの草が生い茂っていました。当日は、ボランティア活動に参加されていた他の団体様とともに、草を刈り、草で隠れていた瓦礫を撤去しました。



瓦礫の撤去作業の様子



側溝に詰まった泥をかき出す作業の様子



海際の瓦礫撤去作業の様子

SAJからの要請により
ワタミの介護で被災地のご高齢者様を受入れ

福島県いわき市からSAJへの要請で、福島原発から50kmの運営不能になった特別養護老人ホームのご入居者様19名様を2011年3月18日、ワタミの介護で受け入れさせていただきました。介護施設では、スタッフが洋服や生活用品を持ち寄るなど、生活準備を整え心を尽くしてお迎えしました。ご入居者様は福島の介護施設の運営が再開されるまで約1ヵ月間お過ごしください、笑顔で福島にお戻りになされました。

受け入れまでのワタミの介護の従業員の連携

- 3月17日**
 - 15:00 福島県いわき市の特別養護老人ホームのご入居者様19名様をSAJを通じてワタミの介護で受け入れることを決定。
 - 17:00 受け入れさせていただく介護施設(4施設)を決定。各介護施設にて、ご入居者様の下着、洋服、部屋等の準備開始。
- 3月18日**
 - 7:00 大型バスにて、ワタミの介護の従業員も含め、福島へ到着。
 - 8:00 ワタミの介護では、ドクター、薬局の選定を行い、薬の提供と診察を依頼。
 - 10:30 福島県いわき市の特別養護老人ホームに到着。
 - 11:00 福島を出発。
バスの中では、ワタミの介護の従業員による「簡易アセスメントシート」を作成。
ご入居者様の写真、薬の情報なども合わせて資料を作成し、メールにて情報を随時発信。
その情報をもとに、医療連携を調整、各介護施設にて食事や入浴の準備。
 - 16:00 順次、各介護施設に到着。



ご入居者様の受け入れの様子

SAJの支援活動に協力した
ワタミタクシヨクの炊き出し

2011年6月4日、埼玉県加須市の旧騎西高校に避難されている福島県双葉町の方々へ「野菜たっぷり血うどん」を提供させていただきました。避難所の食生活においてビタミン不足が懸念されていたため、ワタミタクシヨクがワタミグループに加わる以前から販売してきた長崎名産である「長崎血うどん」を野菜たっぷりにした特別メニューにして提供しました。



炊き出しの様子

SAJに対する
支援金の寄附

ワタミグループは、SAJの災害支援活動に対し、1,000万円を支援金として寄附、また、ワタミグループの従業員からも支援金を募り、2,096万円を寄附しました。

3月、4月には、ワタミグループ従業員による街頭募金活動を行い、支援金として合計849,996円をSAJに寄附させていただきました。

また、外食店舗、介護施設では、募金箱を設置し、災害募金をお願いを広く呼びかけ、6月15日現在で567万円の支援金が集まりました。



街頭募金活動

外食店舗・介護施設に設置された募金箱

外食店舗にて
復興支援キャンペーン実施

ワタミグループは、被災地への支援を一時的なものにせず、総力を挙げて継続的に支援を続けていきます。そのために、「ワタミから日本を元気に 心をひとつにがんばろう」をスローガンに、東日本大震災被災地復興のための活動を進めています。

第1弾として、ワタミグループ外食国内全店舗において、2011年5月1日から11月30日まで、ご宴会コース全メニュー(飲み放題料金を含む)の売上の1%をSAJの災害支援活動に対し、支援金として毎月寄附させていただきます。

加えて、4月15日よりそれぞれ岩手県と宮城県でつくられている日本酒「南部美人」(岩手県)と「一ノ蔵 無鑑査」(宮城県)を店内でお客さまにおすすめし、多くのご注文をいただけるよう販売を強化しました。



販売強化のために作成した日本酒のメニュー

外食店舗に設置されているポスター

DFC「豊樹会」を中心とした
被災地での炊き出し

WFSのDFC(ダイレクトフランチャイズ)オーナーで結成されている「豊樹会」は、2011年3月より被災地への支援活動を行っています。

3月は、宮城県南三陸町の避難所として使われていた馬場(ばんば)中山生活センターに、発電機1台をお届けしました。災害発生時、確保することが困難であった発電機を、全国のDFCオーナーで協力し、リサイクルショップなどで探し求め、お届けすることができました。

この活動は、1人のDFCオーナーが、宮城県で災害復興支援活動を行っている「一般社団法人 仙台とどけ隊」の活動に賛同し、豊樹会へ参加を呼びかけたことから始まりました。その思いに賛同するDFCオーナーはもちろん、ワタミグループ社員も活動に参加しています。

5月以降は、その「仙台とどけ隊」の支援活動に参加し、毎月1回、被災地での炊き出しや、清掃活動を行いました。7月までに、宮城県南三陸町や石巻市において、炭火焼き鳥丼、豚汁、杏仁プリンなどを提供させていただきました。

今後もボランティア活動は継続していく予定です。



炊き出しの様子

ワタミの介護の従業員による
ボランティア活動

東日本大震災に伴い、一般社団法人全国特定施設事業者協議会より、被災地における特定施設の業務全般の支援や、避難所生活をされている要介護高齢者の方の支援などを目的とした「震災支援スタッフ募集」の案内をいただきました。

ワタミの介護では、この呼びかけに呼応し、ボランティアの呼びかけを行い、多くの従業員が被災地へ赴き、ご入居者様のお話の傾聴、アクティビティ、施設の片付け、清掃などのお手伝いをさせていただきました。



清掃前の様子

清掃後の様子

ワタミグループは、お取引業者様のご協力のもと、事業活動を継続させることができました。

東日本大震災後、関東地方の4つの「ワタミ手づくり厨房(宇都宮センター、日高センター、越谷センター、相模原センター)」において、1日3時間の計画停電が実施されました。しかし、関西地方以西の物流会社様のご協力を得て、関東地方では品不足となっていた乾電池、懐中電灯を取り寄せることができ、停電中でも製造を継続することができました。

また、多くの物流会社様のご協力のもと、燃料不足などの混乱した状況の中でも、外食店舗や介護施設、高齢者向け宅配事業の営業拠点に、毎日製品を配送することができました。

陸前高田市復興街づくりイベント

街おこし 2011-夏 夢おこし



公益財団法人 School Aid Japan(以下SAJ)では、3月11日の震災発生直後から、宮城県への要請に基づき、救援物資を被災地に届ける活動を継続的に行ってまいりました。8月31日現在、合計24便にわたり、食料・飲料・生活用品などを届けてまいりました。また、SAJ代表理事 渡邊美樹は、岩手県陸前高田市市長から「陸前高田市参与」就任を要請され、6月1日に就任いたしました。当時、陸前高田市が最も必要としていた支援活動は「瓦礫の撤去」であったことから、6月13日に急遽ボランティア30人を募集し、試験的に瓦礫の撤去作業を開始。7月からは法人・各種団体・個人を問わず多方面からボランティアを募集し、継続的に瓦礫撤去の活動を行ってまいりました。8月31日現在、延べ38回、1,458名のボランティアを陸前高田市の瓦礫撤去のために派遣いたしました。

第一ステップの「救援物資支援」、第二ステップの「復旧支援」につづき、第三ステップとして「復興支援」活動を展開していきます。8月27日・28日に開催された、被災した地元事業主の事業再開のきっかけを目的とした「陸前高田市復興街づくりイベント」においては、後援団体としてその企画・運営に積極的に関わってまいりました。さらに今後、この復興イベントをきっかけとし、被災地(三陸気仙地区)を中心とした事業主・商店主の勉強会や経営相談の運営主体として活動してまいりたいと考えております。

引き続き、SAJの活動へのご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



岩手日報 朝刊 8月28日



「陸前高田市復興街づくりイベント」の会場



イベント会場内に設置された「夢おこし」ステージ



イベント会場内の「街おこし」ゾーン

SAJ代表理事渡邊美樹(陸前高田市参与)による講演会の開催

陸前高田市復興街づくり イベント特別記念講演

「みんなで街おこし・夢おこし」をテーマに、渡邊美樹27年間の経営ノウハウを地元経営者の方々にお伝えする「みんなの夢シンポジウム in 三陸気仙地区」を開催する予定です。



9月19日(祝・月)大船渡市民文化会館を皮切りに、陸前高田市復興街づくりイベント特別記念講演、毎月の勉強会を三陸地区(陸前高田市、大船渡市、住田町)の事業主、商店主、住民の皆さんを対象に、開催します。